

日本歯周病学会第54回歯科衛生士教育講演会報告

研修会名：日本歯周病学会第54回歯科衛生士教育講演会
(社団法人日本歯科衛生士会 第3次生涯研修)

主 催：日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）

協 力：栃木県歯科衛生士会

日 時：平成26年7月27日（日）13:00～16:10

場 所：栃木県歯科医師会館 大会議室
(栃木県宇都宮市一の沢2-2-5, TEL/FAX 028-648-0471)

演 題：「歯周病プロフェッショナルケアの最前線」
ーペリオドンタルメディシンとプラークコントロールの考え方ー
(1)全身疾患と歯周病
(2)プラークコントロールの考え方

講 師：日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員長 沼部幸博
同 委 員 坂井雅子

研修単位：(1)(2)の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
(1)日本歯周病学会 会員の場合
・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（参加者8単位）
・更新時の生涯研修単位（10単位）
(2)日本歯科衛生士会 会員、会員外の場合
・第3次生涯研修単位に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術3単位）
I-E 「全身疾患、生活習慣病に関する知識」 2単位
IV-A 「セルフケアについて」 1単位

日 程：12:15 受付
13:00 開会
13:10 講義「全身疾患と歯周病」
15:10 休憩
15:20 講義「プラークコントロールの考え方」
16:10 質疑応答
16:20 閉会

内 容：受講生は183名であり、そのうちアンケート回答者127名の内訳は、日本歯周病学会会員39名（非会員63、未回答35）、日本歯科衛生士会会員74名（非会員38、未回答15）（所属：栃木65、東京都2、埼玉2、青森1、未回答4）であった。また、日本歯周病学会認定歯科衛生士は10名、今後の取得予定者は34名であった。はじめに、栃木県歯科衛生士会会長の林 幸子氏の挨拶、続けて研修単位の説明があった。そして講師紹介後、講演に入った。講演では、最初に沼部が本学会の認定歯科衛生士制度の目的と概要、その取得方法、リーフレッ

ト、ガイドブックの発刊、日本歯科衛生士会とのコラボレーションの意義について話をした。

その後、歯周病の特徴をバイオフィームと炎症をキーワードに解説、続けて「フロスカ死か！」の意味、すなわち慢性歯周炎患者において、微弱な炎症の持続によりにより、心臓病、肺炎、脳血管障害、一部のがん、早期低体重児出産などのリスクが高まること、さらに糖尿病治療への影響のエビデンスと、それらへの歯科衛生士としての対応について解説した。それ故に、歯周病は全身の健康に関わる重要な問題で、歯科衛生士は命を脅かす疾病予防の一翼を担い、患者の健康維持に大きく貢献していることを強調した。

次に坂井が、まず歯周治療の流れと、それぞれのステップでの歯科衛生士の演ずる役割について解説した。さらにプラークコントロールにおける、情報収集・現状把握の方法、状況分析・問題点抽出のポイント、目標設定と指導計画立案の大切さ、そして指導の実際とチェックポイント、最後に評価の考えかたについて解説した。

3時間以上に及ぶ内容となったが、全員集中力を途切らせることなく、熱心に講演に耳を傾けていた。

講演終了後、質疑応答が行われ、盛会裡に閉会となった。

以上

文責：日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員長 沼部幸博
同 委員 坂井雅子

